

新潟大学ELSIセンターの紹介

新潟大学

経営戦略本部UA室／研究統括機構 兼務

主任URA 久間木寧子

新潟大学URAビジョン

新潟から、世界に価値ある創造的研究を生み出す原動力となる

新潟大学URAMission

1. 国内外に比類のない、独創的なトップ研究プロジェクトを支援します
2. 次代に輝く研究テーマ創出のための環境を整備し、その発展を支援します
3. 研究推進の見地から、大学の経営改革に貢献します



URA

- 2012年10月設置
- 【文科省】リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備
- 補助事業終了後、大学自主経費にてパーマネント職としての制度設計あり
- 現在 6名で活動

新潟大学

教員数 1,300名程度

学部数 10学部
人文・教育・法学・経済科学・理学・医学・歯学・工学・農学・創生

キャンパス 2箇所 +a
・五十嵐 [本部・人文社会科学系・事前科学系]
・旭町 [医歯学系・総合病院]
+佐渡島 [佐渡自然共生科学センター]



新潟大学URA
Niigata University Research Administrator

新潟大学

研究統括機構

ELSIセンター

Research Centre on
Emerging Technology
and Governance

2023 (R5) ・ 4 ・ 1 設立

メンバー

[専任教員：3 (国際法、経営学、刑事法)

協力教員：6

運営委員：11 (URA (法、農))

客員教員・研究員：5]

目的

新潟大学における**文理融合等の総合知創出**に向けて、国内外の組織・研究者とも連携しつつ、**新興技術に関する分野融合研究等の学際共創研究及びガバナンス研究**を推進する

1. 学際共創研究プロジェクトの推進
2. 学内外にわたる学際共創研究ネットワークの形成・研究交流の実施
3. ELSI /RRIにかかる学内外への普及啓発・研修等の実施
4. ELSIに関する研究支援の対応

弱さ (vulnerability) を強みに変える 2

背景1 第6期科学技術・イノベーション計画 [2021 (R3) /3/26]

我が国は、これまでも少子高齢化や過疎化の進展といった課題を抱えてきたが、更に近年、深刻化する自然災害、科学技術の国際競争力低下など新たな社会的課題に直面している。また、若者世代の自己肯定感の低さなど次代を担う人材に関する課題も浮き彫りになっている。それらを解決するためには、自然科学のみならず人文・社会科学も含めた多様な「知」の創造と、「総合知」による現存の社会全体の再設計、さらには、これらを担う人材育成が避けては通れない。

背景2 他機関でのセンター設置

背景3 人文科学系（法学）の分野融合研究・実施の課題

背景4 センター設置に向けたメンバーの集結

新潟大学ELSIセンター設置における特色

特色1 法学系研究者を中心とした多分野の研究者からの要望で設置

新潟大学ELSIセンター（仮称）設置検討ワーキンググループ：2021/4～11月開催 [全5回]

- ・ 法学系研究者等からELSI/RRIの、日本の情報・世界の動向を共有
- ・ それぞれの分野におけるELSI/RRIへの関わり方・実施のされ方・対応が必要と考えられる課題など共有
- ・ ELSI/RRI関連センターを設置する必要性を考える段階から議論

URA

- ✓ ワーキングの実施提案
- ✓ ワーキングの構成
- ✓ WGメンバーの検討・声掛け
- できるだけ多様性に富むメンバーに

特色2 多分野研究の参画、学際融合研究の重視

ワーキンググループメンバーの専門分野 [20名]

- ・ 国際法・政策・刑事法・個人情報・婚姻法・科学史・錯視・地域連携
- ・ 公共政策・感性情報学・情報
- ・ 皮膚科学・血液内科・法医学・皮膚科学・看護学・消化器外科・公衆衛生学・倫理学 + 法学系出身URA + 理系出身URA

特色3 地域課題・課題の現場への着眼

ワーキンググループでの意見 [強みと課題の抽出]

【地域の課題】地域医療、災害（雪・雪崩・冠水・地震）、過疎、人口減少、教育

課題は、克服しなくてはならない“弱さ”ではなく、生き残るための知恵を習得するもの・持続可能性やレジリエンスにつなげる“強み”と捕らえられるのではない（**vulnerability:脆弱性**）

特色4 全学センター化

研究チームから全学組織へ [学長より]

- ・ WG→提言としてまとめる
- ・ 大阪大学ELSIセンターからの支援
- ・ 法学や医療系にとどまらない課題が生じてくる/研究倫理教育と同等に重要な取り組みになるのでは

ELSIは、すでに検討してきている、という認識



目的	活動
<p>1. 学際共創研究プロジェクトの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 脳神経科学×AI×国際ガバナンス・ルール 共同研究
<p>2. 学内外にわたる学際共創研究ネットワークの形成・研究交流の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ELSI /RRIテーマ：交流会（U-goサロン）開催 他機関開催シンポジウム等への登壇 ブックサロン実施 シンポジウム開催 <ul style="list-style-type: none"> サイエンスカフェ開催 [5回] AI×法学、妖怪×地域マネジメント、災害時×プライバシー 脳科学×倫理、妊娠×少子化 <ul style="list-style-type: none"> 国際シンポジウムの実施：2回 <ul style="list-style-type: none"> 著書出版 3冊
<p>3. ELSI /RRIにかかる学内外への普及啓発・研修等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全学部学生向け科目の設定： 必須科目*ELSI /RRI含 1、 選択可能科目 1 理学系・学部別・FDの開催：3回
<p>4. ELSIに関する研究支援の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ELSIセンター運営委員会 URA,事務含む 事業申請への対応（AMED等）



書籍『弱さの倫理学』について

本書は、倫理というものを、**弱い存在を前にした人間が、自らの振る舞いについて考えるもの**と捉えてみようという試みです。

最初に、人間の弱さを多面的に見つめます。人間という存在を、生物学のような自然科学と、哲学や心理学のような人文社会科学の両面から広く捉えてみると、**私たちの弱さは、生きている存在であるがゆえの代償である**ことが、あらためて見えてきます。**脆さは高機能であることの代償であり、有限性は統合性の、心の弱さは主体性の代償**です。さらに、私たちは、**他者との関わりで生じる弱さ**を持っており、それを**手段化、依存、争い**という三つに分けて考えています。

その上で、人間は弱さに対抗するために**技術を生み出してきた**、と考えてみます。そのような視点で、長い人類の歴史を眺めてみると、18世紀からの200年ほどの短い期間に、人間の技術は強力なものになり、多くの倫理的問題を生み出したことがわかります。人間は、誰もがひとしく弱い存在ですが、**科学技術という強者の服を纏う**ことができ、それによって人々のあいだに差異が生じます。

医療では、強者の服を纏うのは**専門家**であり、患者は裸の弱い存在です。エンジニアは、強者の服を誰かに纏わせて、強い存在を作りだすことができます。さらには、他の生物や環境を前にするとき、私たちの誰もがこの強者の服を纏っているのに、しばしばそのことに無自覚です。本書は、そのような視点を採用することで、**医療倫理、技術倫理、環境倫理を、同じテーブルの上で考えてみよう**という試みでもあります。

[> AMAZON](#)
[> 楽天ブックス](#)

ELSI/RRI関連研究書籍の出版

渡辺 豊・根津洗希 編

AIと分かりあえますか？

ブラックボックスが生まれるしくみ

ブックレット『AIと分かりあえますか？— ブラックボックスが生まれるしくみ—』が刊行されます

ELSIセンター教員の著書が、令和5年度新潟大学学術出版奨励賞を受賞しました！

♡ 4

新潟大学ELSIセンター
2023年10月3日 17:36

ELSIセンター副センター長の白川展之先生の著書『先見的ガバナンスの政策学：未来洞察による公共政策イノベーション』（明石書店）が令和5年度新潟大学学術出版奨励賞を受賞しました。

2023 / 8 ・ RA協議会

RA協議会第9回年次大会 F-2セッション/
第17回JINSHA情報共有会

イチURAから見た、 ELSIの実践と対応



新潟大学URA
Niigata University Research Administrator

2025/3 ・ JINSHAフォーラム

2025.3.10 月 14:00~

神戸大学
六甲台第二キャンパス
バイオメディカルメンブレン研究・
オープンイノベーション拠点棟1階
ダイセルO1ホール

ハイブリッド開催

新潟大学と神戸大学の取り組み事例をもとに、
自然科学系の研究者との議論も交えながら、
人社系研究がいかに
産業に貢献し得るのかを考える

人社系研究は どう産業に貢献し得るのか

「シンダイ」の実践から紐解く

第十回 人文・社会科学系研究推進（JINSHA）フォーラム

神大×新大



JINSHA [人文・社会科学系研究推進フォーラム]
URA、研究者、学務職員、府省・資金配分機関担当者などが、ともに人文・社会科学分野のよりよい研究
推進のあり方を議論する場として、2014年より開催しています。フォーラムの企画・運営は、開催校を中心に、
各大学の人社系担当URAの有志グループによって行われています。

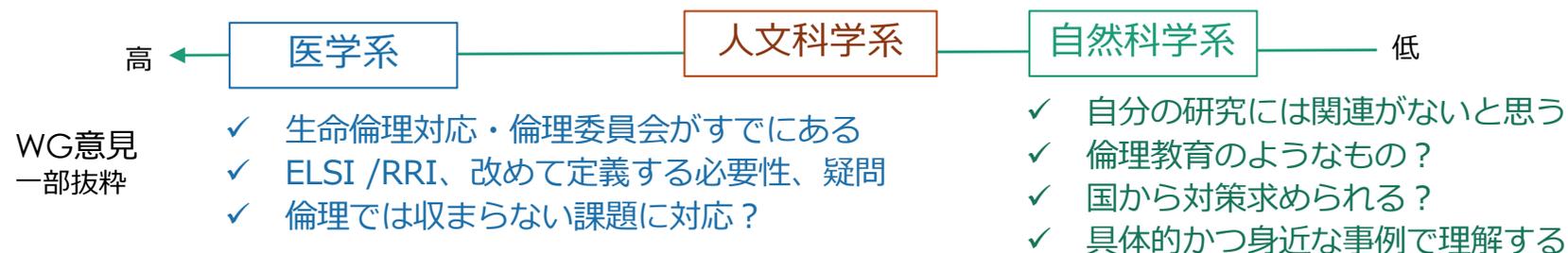
主催：神戸大学 学術研究推進機構学術研究推進部 / 新潟大学 学術情報連携推進部 研究推進課長 青島 URA

神戸大学との共同

分野によるELSI/RRIへの関わり度合いの違い

相違点1

分野によるELSI/RRIへの認知状況の違い



相違点2

分野による用語・認識の違い



どのレベルを目指しているのかをお互い共有することで、
今までとは異なるアプローチ方法が考えられるようになる？

1. **参画する研究者の増 ・ 分野の多様性**
2. **ELSI/RRI研究チームの強化、外部資金獲得**
自動運転、災害、脳神経科学、ガバナンス研究・・・
3. **自然科学系分野研究者のELSI /RRIへの意識改革 ・ 啓蒙活動**
4. **全学におけるセンターとしての役割見直し ・ 発展**
5. **URAが考えて実行する、ELSI/RRI 研究関連の活動が必要**
→センター機能強化以外への活動